

平成 25 年度三重県林業研究所の試験研究評価

林業研究所試験研究評価実施要領に基づき、平成 25 年度に実施した林業研究所試験研究評価委員会の内容は次のとおりでした。

委員（4名）

- ・三重大学名誉教授
- ・建築設計事務所代表取締役
- ・林業経営者
- ・三重大学大学院生物資源学研究科講師

1. 平成 25 年度第 1 回試験研究評価委員会

開催日：平成 25 年 10 月 3 日（木） 場所：林業研究所

内容：事前評価及び中間評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

事前評価及び中間評価課題とも、研究担当者がプレゼンテーションを行い、質疑応答の後、評価方法内規に基づき 20 点満点で採点されました。平均点が 12 点を下回るものについては、林業研究所長が研究課題の不採択、中止及び計画の変更等を検討することになりますが、今回は該当する課題はありませんでした。

評価対象課題と評価結果及び出された意見は以下のとおりです。

（事前評価）

① 伐採跡地における広葉樹林の育成技術の開発に関する研究

評価平均点 16.25 点

出された意見：

- ・他県の研究結果との比較を念頭において研究を行ってほしい。
- ・伐採跡地を継続して研究することは必要である。
- ・固定調査地とそれ以外の皆伐地との比較を検討されたい。

② 新植地におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の開発

評価平均点 15.75 点

出された意見：

- ・特徴のある誘引餌の発見を期待する。
- ・捕獲後のと殺法と利用法を研究されたい。

③ 県産材を活用した耐久型フローリングの開発

評価平均点 14.50 点

出された意見：

- ・スギの高品質化にも取り組んでほしい。
- ・店舗において土足で利用できるフローリングの開発に期待する。

④ 搬出間伐における最適な集材機械の選択に関する研究

評価平均点 13.75 点

出された意見：

- ・森林組合などが、集材システムを選択し、使用できる技術にしてほしい。
- ・森林組合に加えて、素材生産事業者等に範囲を広げるなどデータ収集に工夫したほうが良い。

⑤ 列状間伐実施林分の実態把握に関する調査

評価平均点 17.00 点

出された意見：

- ・列状間伐と樹幹の形状、材質との関連性についても検討されたい。
- ・森林管理をするための指針づくりに役立つ調査を期待する。
- ・非常に重要なテーマである。

(中間評価)

① 森林被害防除のための調査研究

評価平均点 17.00 点

出された意見：

- ・シカの行動圏調査から想定している防除効果が明確になることを期待する。
- ・シカの行動圏調査データの解析結果（季節変化、日変化）の続報を期待する。

2. 平成 25 年度第 2 回試験研究評価委員会

開催日：平成 26 年 3 月 12 日（水） 場所：林業研究所

内容：事後評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

① 間伐促進のための森林作業道開設支援技術の開発

評価平均点 15.00 点

出された意見：

- ・作成された作業道開設支援マップについて、現場での適用を検証されたい。

・作業道の開設支援技術は必要なことであり、より有効な技術の確立を期待する。

② 伐採跡地における森林造成技術の開発

評価平均点 17.75 点

出された意見：

- ・防護柵の効果が明確となった。今後は防護柵以外の有効な対策の検討を期待する。
- ・天然更新地の継続調査を期待する。
- ・結果が明確で良い研究である。

③ 木質チップの含水率推定法に関する技術開発

評価平均点 16.25 点

出された意見：

- ・簡易な方法で、現場で採用されやすいものとなっている。
- ・樹種が混在する状態でも使用できる工夫が必要である。

④ 大径材有効利用に関する技術開発

評価平均点 15.75 点

出された意見：

- ・木材の乾燥条件と木材の物性との関連性の解析を期待する。
- ・天然乾燥による結果を期待する。材料または目的によって乾燥方法を選ぶことが重要である。
- ・曲げ強度試験時にせん断破壊が発生した理由の解明を期待する。